



## ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会  
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏  
tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009  
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: [fujigaoka@jelc.or.jp](mailto:fujigaoka@jelc.or.jp)  
発行 月報編集委員会 発行日 2018年3月4日 No. 46



photo by Kaz Sato

あなたがたの中で偉くなりたいものは、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。

マルコによる福音書 10章 43-44節



## シリーズ説教

### 『祝福の入り口』

牧師 佐藤和宏

マルコ10章32節～45節

先日、「洗礼後の学び」の時間に、民数記6章にある「祭司の祝福」という箇所に触れる機会がありました。民数記によりますと、この祝福は40年に及ぶ荒野の旅の始まりにあつて与えられたことがわかります。私たちもまた、毎週の礼拝の終わりにこの祝福の言葉を受けます。

現在の青式文で祝福の言葉は、「ます」という言い切り型が採用されています。次のような説明を受けた記憶があります。ヘブライ人の信仰観といったらいいのでしょうか、それによると、彼らにとつて祈りは祈ったときに聞き入れられたとの確信とともにあったというのです。つまり「〜ように」という表現から聞き取られる、将来への期待願望よりも、その言葉が口にされた今そのときに実現するという固い信頼があるのだというのです。そのような意味合いを明確に表現しようとしているのが、

「ます」という言い切り型になります。

また、それぞれの式文が採択された時期と重ねてまいりますと、戦後「日本福音ルーテル教会」として再建の時期であり、また新たに合同を実現した時期でありました。つまり、共通の礼拝式文を確立することによって、戦後の混乱期にあつても、それぞれ違った歩みをしてきた教会が合同するときに、教会の群れは一つになれることを証しているのです。そしてこれは今を生きる私たちにも言えることでしょう。私たちは一人ひとり、違う思いを持ち、違うことに心を傾ける群れでありましょう。そのように違う存在が、ただ礼拝において、キリストのゆえに一つとされるのです。

『命は大切だ』『命を大切に』そんなこと何千万回言われるより、『あなたが大切だ』誰かがそう言うてくれたら、それだけで生きていける。」

「命は大切だ」「命を大切に」、確かにそうなのですが、それは一般的な事実を説明しているにすぎません。そこには具体的な対象が見えず、誰に対す訴えなのかもわからず、届きたい相手に伝わらないと言えるで

しょう。これに対して「あなたが大切だ」とは、決して一般化された事実ではなく、具体的にその相手だけに向けられた言葉として、そのようにな届けたい思いとして伝わる力となるにちがいません。

はじめに「祝福」の言葉に触れました。それは会衆に向けられる言葉ですから、「あなたがた」とされていいのではないかと思われま。民数記でもイスラエルの人々に向けられるのですから「あなたがた」とされていいはずなのです。しかし、そこにみられる祝福は「あなたがた」ではなく、「あなた」となっているのです。このことは、主なる神が「命は大切だ」と事実を一般化して説明する方ではなく、「あなたが大切だ」と、具体的な対象としてあなたに向かって語りかける方であることを示していると言えるでしょう。今日も礼拝の終わりに、私たちは具体的にただあなたに向かって、日々の生活における苦しみや悲しみ、悩みや不安、それらを抱えるあなたに向かって、「あなたを祝福し、あなたを守られます」との祝福を受けるのです。

「祝福」を意味するヘブライ語には

「ひざをかがめる」という意味があります。主なる神は「あなたを大切にする」ために、「ひざをかがめて、あなたに仕える」方とされたのです。「かがむ」とは、その目線を小さな相手と同じ高さにするをもたらし、また「神がかがむ」とは、私たちと同じ人間となられるという事実を指しています。神は、御子、主イエス・キリストに十字架の死を遂げさせるほど、「ひざをかがめて」私たちの罪の赦しを実現されたのでした。つまり、この十字架の主イエスこそ「神がかがんで、あなたに仕える」、「あなたが大切だ」と、ただあなたに向けられた祝福そのものにちがいないのです。「祝福」がイエス・キリストであるなら、私たち教会の群れは、すべての人々に向けられた祝福の入り口でありたいものです。神が御子イエスの十字架によってあなたに「かがんで」くださったように、私たちもすべての人々に、しかも「あなたは大切だ」と具体的な相手を見いだして、神の祝福を実現するために、人々の前にかがんで、仕える「あなた」として用いられて生きるのです。

(四旬節第2主日)

## 五島列島を旅して

松〇〇子

宗教改革500年の記念すべき年に、日本にキリスト教が初めて伝来された地を訪れる旅が出来たことは大変嬉しいことでした。

まず、羽田から福江空港に降りました。バスで福江島内の教会巡りをしました。民家が少なく、人の気配もあまりないのどかな道を走りまです。教会は、海を見下ろす高台の上や入りくんだ径の奥などにひっそり



■旧五輪教会堂

と建っています。教会の造りは、素朴な木造りの教会から重厚なレンガ造りの教会までさまざまありました。五島に住む信者の方々の心の中には、長い間の迫害に耐え、信仰を守り抜いてきた強い信仰心が受け継がれているのですね。どの教会もこういった信者により大切に守られ、管理されています。現在は信者数が減り、2人とか4人とか、多くて8人位とか、まったく信徒のいない教会もあると聞きました。お墓を見ましたら、墓石に刻まれている文字はすべて金文字でした。

福江港から、船で久賀島に渡りました。ここには旧五輪教会堂といって、外観は和風建築、内部は本格的な教会建築、ゴシック様式の教会があります。約300年に及ぶ弾圧から解放されたキリシタン達は、各集落に教会を建てていきました。その時に建てられた、最初の建物だそうです。再び船で福江島に戻り、一路宿泊地へと向かいました。

翌日クルージングで、キリシタン洞窟を見ました。思えばキリシタン洞窟は明治初めの五島地方でキリシタンの弾圧が始まり、迫害を逃れて

険しい断崖の洞窟に隠れて暮らしていたのに、ある時焚き火の煙で見つかってしまった、捕縛された悲しい場所ですね。船は若松港に到着。バスで4〜5の教会を見てまた船に乗り、1時間半の船旅を楽しみました。長崎港到着。バスで宿泊地へと向かいました。到着した夜は世界新三大夜景（長崎・香港・モナコ）の一つといわれる長崎の夜景を見に行きました。

一念願の五島列島へ行くことができ、本当に幸せでした。感謝の旅でした。

## 長崎の旅で教えられた事

〇田〇子

長崎での宗教改革500年記念合同礼拝に出席する機会が与えられ感謝です。

礼拝当日、浦上天主堂の広い聖堂にカトリック・ルーテル派信徒が一堂に会し、共に礼拝を守る光景は圧巻。ステンドグラス越しの幻想的光を浴び、赤く輝くキリスト像の下、双方の聖職者が入り混じり、お揃いの白い式服に赤いストールで身を包んで並ぶ姿は感動的でした。（カト



■キリシタン洞窟

リック司祭の言葉「キリスト一点絞めて思われる場面でした。」

次の日、長崎駅近くの西坂公園まで歩き、以前よりぜひ拝見したいと願っていた、舟越保武氏作二十六聖人像の前へ。青空の下静寂の中、一列に並び両手を合わせて祈る二十六聖人の像。子ども・若者・老人、その顔立ちは一人ひとり異なるものの、皆一途な表情で天を仰ぎ、静かに祈っておられる。そして、その足が一様に下に垂れているその姿が、



残酷な処刑死を物語ります。迫害の中、命を懸けて信仰を貫いた聖人達の生き様を、カトリック信者舟越氏が精魂込めて表現された作品だと感じました。

聖人像の裏にある記念館で、禁教時代、迫害を受けた方・受けながらも密かに、忍耐強く、代々信仰を守り続けた方々の品々を拝見。「私だったら、こんな毅然とした精神、強い信仰を持ち得るであろうか。」そんな思いが胸をかすめます。

午後は皆と一緒にバスで外海町へ。ドロ記念館や出津教会等を見学し、最後に遠藤周作文学館へ。目の前には雲間からの光が白く輝く、穏やかな海が広がっていました。

文学館の展示を通して、私には彼が「人間の弱さを見つめ、弱い者の信仰（心弱い者と神との関係）を問いました。」作家であることが感じられました。その事はまた私に「簡単に転んでしまうような、弱い信仰者であることに気づきなさい。自分の弱い心を自覚しなさい。」と伝えているのではないかな。自らに問う機会が与えられた場所のように思いました。

この旅を通して、自らの弱さを自覚してゆくことを改めて思わされると共に、「毅然として信仰に生き、命を懸けてその信仰を貫いた先人達が存在した事実を忘れてはならない」と教えられた気がします。

この旅に同行された皆様には、お世話になりました。ありがとうございます。

## ■新役員よりひと言①

江〇〇子さん（代議員）：藤が丘の兄弟姉妹の皆様と共に心暖まる教会を作っていたら！と思います。

〇木〇子さん（書記）：ラインホルド・ニーバー（神学者・牧師・政治学者）の祈りが好きです。「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと変えられるものを変える勇氣とその両者を見分ける英知を我に与え給え。」

〇野〇之さん（会計）：教会の財源確保のために邁進してまいります。

## ■女性会だより

2月18日 礼拝後 出席者15名

第1部 聖書の学び／ヨブ記19章25～26節／「キリストの愛の深さ」

第2部 ・東教区女性会報告

規約の一部変更について

・清野花梨姉プラベージュさん

3月17日結婚式について

・3月2日 世界祈祷日

於：日本福音ルーテル東京教会

〇田〇さん（教育）：数年ぶりに役員に選出され、いささか役員会の雰囲気にとまどっています。神の見守りのうちに、働ける事を感謝します。

## ■教会の動向



### ■2月の教会

4日：礼拝にて役員就任式、聖餐式、こどもメッセージ。礼拝後、定例役員会。7日：洗礼後の学び、聖研。8日：城南神奈川地区牧師会。11日：礼拝にて役員就任式。礼拝後、月報編集委員会。14日：お仕事会。この日灰の水曜日を迎え、四旬節に入りました。15日：洗礼後の学び。18日：礼拝後、女性会。午後3時より牧師代議員会（市ヶ谷）。21日：聖研、22日：洗礼後の学び。25日：礼拝後、信徒の集い（仮称）を開き、信徒の皆さんの声を聞く機会となりました。その後、ピクニック委員会。27日：洗礼後の学び。

礼拝に初めてのお越しは、中〇〇絵さん、〇乃さん、吉〇〇太郎さん、〇くん、〇くん、〇田〇々美さん、小〇田〇代子さんでした。主の祝福をお祈りします。